

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 出版物紹介

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2024-07-01<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.57529/0002000534">https://doi.org/10.57529/0002000534</a>            |

# 出版物紹介

## 平藤喜久子『日本の神様 解剖図鑑』

(エクスタレッジ、2017年12月)

### 内容紹介

日本には八百万の神々がいる、という言い方をします。八百万とは、数えられる数字のことではない。とにかくたくさんの神々がいるという意味である。たしかに『古事記』や『日本書紀』を紐解けば、天照大御神や須佐之男命等々、そこには覚えられないほどたくさんの神々が登場する。こうした古い文献には登場しなくとも、土地の言い伝えや昔話などで語られる神もいるし、その土地の山や川そのものが神とされている場合もある。

本書は、「解剖図鑑」と題されているように、その神々の神話や姿、信仰のあり方をできる限り描き出し、解き明かそうとしている。神話には性別も不明であれば、どのような姿をしていたのかまったく描かれていない神も珍しくない。しかしそれをあえて描こうとすることで、今まで以上に深く神について考えることができるのではないだろうか。



## 平藤喜久子監修、メディアソフト書籍部編集『見るだけですっきりわかる神さま』

(三交社、2017年11月)

### 内容紹介

神がどんな服装をしているのか、どんな顔をしているのか、詳しいことはわからないことが多い。なかには性別もわからない神もいる。だからこそ自由に想像することもできるだろう。本書は神話や神をもっと知りたい、その神の信仰についても知りたいと思う人のために、150以上の日本の神たちをイラストで紹介し、解説を加えている。神話を伝えている『古事記』や『日本書紀』などの資料を参考にしたり、これまで伝えられてきた神の図像なども参照されている。

目次は次のとおりである。

- 第1章 日本神話と日本の誕生
- 第2章 みんなが知ってる代表的な神さま
- 第3章 分社数が多く全国でよく出会える神さま
- 第4章 神話のなかの神さま
- 第5章 いろいろな神さま



## 平藤喜久子講師、日本放送協会・NHK出版編集『NHK趣味どきっ！ 福を呼ぶ！ ニッポン神社めぐり』

(NHK出版、2017年12月)

### 内容紹介

本書は2018年1月、2月にNHK Eテレで放映された番組「趣味どきっ！ 福を呼ぶ！ ニッポン神社めぐり」のテキストとして作成されたものである。番組のテーマは、祭神やその神話を知り、御利益のいわれなどを知って神社めぐりを楽しもうというものである。構成は御利益に対応する形で次のようになっている。

- 第1回 今年もよい年に！【初詣】
- 第2回 心と体も癒やしたい！【美と健康】
- 第3回 受験生がんばれ！【学問】
- 第4回 趣味や芸の上達を！【芸事】
- 第5回 家族の絆を深めたい！【子育て】
- 第6回 すてきな人に出会いたい！【縁結び】
- 第7回 安心して暮らしたい！【安全】
- 第8回 運気を上げたい！【商売・仕事】



## 平藤喜久子監修『イラストでまるわかり！ 日本の神様ご利益事典』

(神宮館、2018年3月)

### 内容紹介

日本人は古くから多くの神とともに暮らしてきた。そして神ごとに「ご利益」は違っている。本書ではご利益別に神の解説をし、読者が自分に合った神を見つけることができるようになっている。構成は次のとおりである。

- 1章 日本神話でおさえておきたい「知っておきたい神様」
- 2章 運命の人に出会いたい、結ばれたい人が必読の「恋愛・縁結びの神様」
- 3章 金運を向上させたい人におすすめの「商売繁盛・財福の神様」
- 4章 学力向上や技術向上、スポーツなどの運気を上げる「学問・スポーツ・芸能の神様」
- 5章 私たちの身の回りを守ってくれる「暮らしに根付いた神様」
- 6章 健康増進・安産・子育て・美容に悩む人の味方になる「健康・美容・安産の神様」



## 監修 藤澤 紫『別冊太陽253 鈴木春信 決定版』（別冊太陽 日本のこころ 253）

（平凡社、2017年8月）

### 内容紹介

浮世絵師鈴木春信（1725?～70）は、四季風俗や祭礼などの「江戸の暮らし」を好んで描いた。庶民層に広まり、やがて江戸を代表するメディアに成長した浮世絵は、明和初年に誕生した画期的な印刷技法「錦絵」により人気を不動のものとした。古典、逸話の見立てを交えた巧みな演出など、春信は皆が知っている情景や共感する感情をドラマティックに表現することに長け、まさに「読む浮世絵」と言える名品を量産した。錦絵の創製に関わった春信作品の魅力を「恋」をキーワードに読み解く本書では、フルカラーで130件を超える国内外の名品を紹介している。総勢11名の美術史、芸能史、風俗史に関わる研究者により、男女の恋、何気ない日常、古典への憧憬などの切り口ある作品を読み解くとともに、錦絵の創製といった木版画の技術革新にもスポットを当てた1冊。



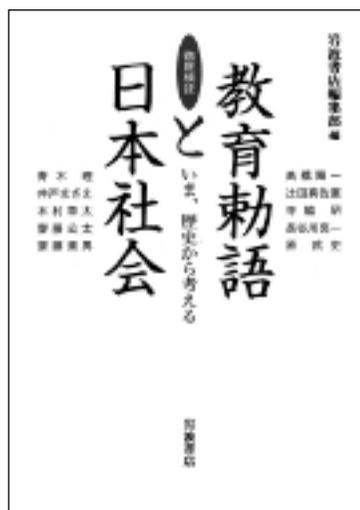
## 岩波書店編集部編『徹底検証 教育勅語と日本社会——いま、歴史から考える』

（岩波書店、2017年11月）

### 内容紹介

戦後、教育勅語は学校教育における失効が決定されたが、現在に至るまでしばしば社会的な議論の的となってきた。本書はその背景を、教育史や思想史の研究者、ジャーナリストなど様々な論者が多角的な視点から考察した論集である。第1部「歴史のなかの教育勅語」の論考の執筆者は高橋陽一、齋藤公太。第2部「教育勅語から考える」の執筆者は長谷川亮一、井戸まさえ、斎藤貴男、原武史、辻田真佐憲。第3部は「教育勅語が照射する現代の社会と教育」と題して青木理、寺脇研、木村草太による鼎談を収録している。

齋藤は「『国家神道』と教育勅語——その狭間にあるもの」と題した論考を執筆した。教育勅語を「国家神道」の「教典」とする見方は今も一般に流布しているが、その問題点を教育勅語の成立前史までさかのぼって検証している。



## 今井信治『オタク文化と宗教の臨界—情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究—』

(晃洋書房、2018年3月)

### 内容紹介

オタク文化の担い手による熱狂はしばしば宗教性をもって語られ、また彼／彼女らがその文化内で宗教的語彙をフォークタームとして用いることは知られるところである。本書は消費社会・情報社会におけるオタク的在り方をコミュニケーションの尖鋭と捉え、聖地・祝祭としてのイベント、そしてアニメの舞台となった場所を訪れる「聖地巡礼」などをテーマにして論じる。

今日、誰もがインターネットに接続する社会において、「場所」とは現実地理的な空間のみ限定されるものではない。むしろ、メディア空間に勃興した「場所ではない場所」こそが、今では重要性を帯びている。メディア空間に根差しつつ緩やかな連帯を行うオタク・コミュニティが現実の都市やイベントとの往還を行うときに執り行われる折衝を丹念に描き出すことによって現代社会の試金石とする一書。



## 村上晶『巫者のいる日常—津軽のカミサマから都心のスピリチュアルセラピストまで—』

(春風社、2017年7月)

### 内容紹介

イタコの消えゆく今日の津軽地方では、カミサマと呼ばれる「霊能者」が死者の口寄せを行っている。「あの世」と交渉する力をもったカミサマたちのもとへは今日も依頼者が相談に訪れる。カミサマとはいかなる人物でどのような実践が行われているのか。そして、人々はカミサマたちに何を期待しているのか。日々の依頼場面や村々での儀礼、社寺との関わりなど、フィールドワークの成果から、カミサマをめぐる世界の成り立ちと現状が明らかにされる。また、カミサマの事例のみならず、他地域からの依頼者との関わりによって大きな変化がもたらされているイタコの在りようや、都心のビルにカウンセリングルームを設けるスピリチュアルセラピストの実践までを射程に入れ、私たちの隣にいる、現代日本の巫者（シャーマン）の姿を探っていく。

